

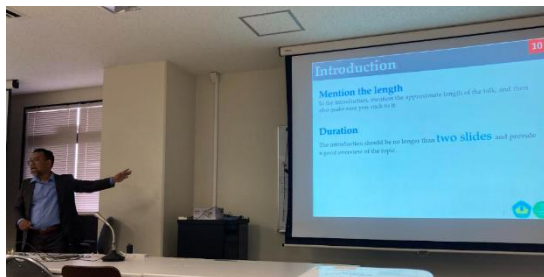
令和5年度
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和 5年11月1日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 The university of Lampung, Diding Suhandy
2. 受入研究者 所属・職・氏名 三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻・助教・内藤啓貴
3. 招へい期間 令和 5年9月30日 ~ 令和 5年10月16日
4. 活動実施の内容とその成果 (注) 任意の形式 (ただしA4サイズ) にて作成したものを添付してください。写真等の記録も添付してください。 申請書に記載された計画に対して、活動実施の内容と成果を記載します。 ① 大学院における英語で実施する授業が組み込まれることで、修了時の英語力向上についての満足度が改善することが期待される。また、授業ではオンラインでランプーン大学の大学院生との研究交流も実施するため、授業の内容が発展することで国際協力的な研究が加速することが期待される。 実績として、1度のオープンレクチャを実施し、30名程度共生環境学科、資源循環学科、工学部からの参加者があった。留学生の参加も5名程度含まれ、学部間や国際間のコミュニケーションの機会が得られた。また、大学院の自然エネルギー工学特論にて英語のプレゼンテーション方法についての講義を実施し、英語での研究交流も実施した。Diding先生の帰国後に日本11名インドネシア10名の計21名でオンラインでのジョイントクラスも実現した。





- ② 具体的な学部イベントとの関連はないものの、講座内での訪問時、帰国時の交流イベントを実施予定であり、授業に参加する大学院生のみならず学部生に対しても国際的な交流の機会を提供できると期待される。

2回の交流イベントを企画して、学部生7名を含む日本人学生7名、学生インドネシア留学生7名を含む国際交流機会が生まれた。この交流会においても生物資源学部内（共生環境、資源循環）のみならず工学部からのインドネシア人参加者も確認され学部間の交流も実施出来た。



- ③ 環境情報システム工学実習 I への参加、フードシステム学研究室における小ミーティング（月）、セミナー（金）への参加、協業研究に参画する学生の実験、解析指導、その他学部学生との英語での交流

予定通り実習への参加、小ミーティングにおけるコーヒーカップングテストの実施方法の伝授（22名の参加）、セミナーにおける英語でのディスカッション（10名の学生のディスカッションを確認）、個別の実験解析方法（B4 中川さん）の指導を通じて、多くの英語でのコミュニケーション機会が生まれた。



以上の通り、成果を報告します。暖かいご支援について改めて感謝申し上げます。